

## 「朝ドラ」における夫婦間の呼称 ——関係性の変化に着目して——

お茶の水女子大学 土屋はる野

近年、働く女性や主夫の増加によって夫婦のあり方が変化してきたことに伴い、夫婦の使用することばにも変化が見られると考えられる。本研究では、夫婦の関係性の変化によってお互いの呼称はどのように変化してゆくのかを明らかにすることを試みる。

夫婦や恋人間の呼称(対称詞)について論じた先行研究のうち、現実の夫婦を調査したものを整理してみると、「子供が誕生した後は、父称あるいは母称で呼び合うようになる傾向にあること」、「夫婦間の呼称の使用状況には非対称性が見られること」のほか、呼びかけを省略することが出来るような「おい」といった応答詞での呼びかけが使用される」と仮説を立てることができる。しかし、これらの研究はある一時点でのアンケートや面接調査に基づいており、長期にわたって夫婦を観察し、実際の会話を見ながら調査したものはなく、研究の余地が残されている。

そこで本研究では、次の3つの条件(①ある夫婦を、関係性の変化を追うことができる程度の長期にわたって見ることができる ②異なる時代の夫婦を見ることができる ③実際の会話を見ることができる)を満たすことから、NHKの「朝ドラ」10本を調査対象とした。本稿で用いる呼称の名称は、先行研究を参考に独自に定めた14種類である。また、本稿ではこれらの呼称を、先行研究を参考に相手への敬意の度合い別に「A=高い」、「B+=普通~高い」、「B-=普通~低い」、「C=低い」の4つのレベルに分類し、分析の際に用いることとする。

夫婦の関係性の変換点としてあらかじめ4段階に定めた「①出会い」、「②交際」、「③結婚」、「④子供誕生」の各段階について調査を行い、調査より得られたデータ全体を概観すると、次の5点の結果を得ることができた。1) 妻・夫の呼称の使用状況には、どの段階でも非対称性が見られ、概して、夫の方が敬意レベルの高い呼称が用いられる傾向にあった。このことから、朝ドラでは妻よりも夫の方が優位な立場に描かれているといえる。2) 夫は「③結婚」すると、また妻は「④子供誕生」以降、呼称使用のありようが大きく変わり、敬意レベルが高い呼称の使用から、より敬意レベルが低い呼称の使用へと遷移した。3) 「父称/母称」の使用が一例も見られなかった。4) 「応答詞」の使用も一例も見られなかった。5) 「ゼロ呼称」の使用は一例しか確認できなかった。まず2)については、朝ドラ夫婦の使用する呼称の特徴と結論づける。3)、4)は複数の先行研究で出現している結果とは大きく異なる結果である。3)については、本研究における妻・夫は、朝ドラの主人公夫妻であることから、「誰かの母・父」という位置付けではなく「物語の主人公」であるという人物の特徴を反映しているための結果であると考えられ、4) 5)は、「呼びかけ」や「ゼロ呼称」では、誰に話しかけているのかが視聴者に伝わりづらくなるための結果であると考えられることから、3) 4)は特に、現実の夫婦ではなく、フィクションである朝ドラの夫婦を調査対象とした、本研究に特有の結果であると結論づける。